

精進

| | |
|----------------------|----|
| ● 目次 | 1 |
| ● 会長挨拶 | 2 |
| ● 令和五年度定時総会報告 | 3 |
| ● 令和四年度事業報告・収支決算書 | 4 |
| ● 令和五年度事業計画・収支予算書 | 6 |
| ● 六十周年記念事業 ラダック研修 | 8 |
| ● 支部だより | 12 |
| ● 禅フェス告知・ホームページ&ロゴ紹介 | 14 |
| ● 令和六年版「禅の暦」紹介 | 15 |
| ● 僧見聞録・編集後記 | 16 |

曹洞宗福島県青年会会報

第114号

23.9.30





会長挨拶

会長 佐藤泰典

青年会会員各位におかれましては、益々ご清祥のことと拝察申し上げます。また県内各地の皆様方には平素より青年会活動に対しご理解、ご協力を賜り謹んで御礼申し上げます。今年の夏は、お盆を過ぎても暑さが収まらず、毎日が記録的な猛暑日となりました。この精進がお手元に届くころは、過ぎしやうい季節となっていることを願うばかりです。

振り返れば二年間の任期もあと半年余りとなりました。会長に就任して掲げた目標、事業を

どこまで実現、具体化できるか、自分にできる限り精一杯勤めているところであります。

四月十一日に行われた総会では、四年ぶりに懇親会も行うことが出来、少しずつコロナ禍前の青年会活動が戻りつつあることを実感する中、今年度の活動がスタートしました。六月初めには、六十周年記念事業として、北インドのラダックへ赴き、現地のチベット寺院との交流、記念植樹を行って参りました。日本とは全く違う文化、気候に触れ、多くの経験、学びを得るこ

ととなりました。代表団は総勢七名と少数ではありましたが、二十代の若い会員も参加いただきました。次世代へこの経験が生かされることを期待すると共に、植樹した木々の無事に成長されることを祈念しております。

四十年以上の歴史を持つ、当会を代表する事業である「禅の暦」令和六年度版の制作も無事に完了し、新しい試みとして新サイズ「A4版」と「従来版」の二種類を頒布することとなりました。より多くの御寺院に届き、多くの檀信徒の皆さまへの布教教化活動の一助となればと思います。

そして十月十五日には、六十周年事業の集大成となる「ふくしま禅フェス」が行われます。曹洞宗の根本である坐禅体験を軸に、一般の方々に仏教を身近に感じてもらえればと、多くの体験ブースを用意しました。子

ども向けのワークショップ、写経・写佛、食育講座、法要・御詠歌の実演、悩み相談、オリジナル御朱印などを企画しています。支部ごとにオリジナルブースを展開し周年委員会を中心に全体の運営を行う、正に自分たちが主役、主体となるイベントとなります。それぞれがこれまでの経験を活かし、個性を發揮しながら、時には悩み、時には楽しみながら本番を迎えるべく準備を進めております。もし関心をお持ちの方がおられましたら、是非当日会場である會津藩校日新館までお越しください。

会のロゴマークも完成いたしました。このマークには様々な意味が込められてますが、福島県の山々を想起させるデザインでもあります。残りの半年間、山に登るが如く一つ一つの事業に取り組んでいきます。

令和五年度 定時総会報告

令和五年四月十一日（火）、郡山ビューホテルアネックスを会場に「令和五年度曹洞宗福島県青年会定時総会」が開催されました。

午後二時三十分、事務局長の井上順平師の進行により、副会長の村上徹信師から開会の



辞が述べられました。引き続き会長
の佐藤泰典師が導師を務め、仏祖諷經
を行い、続いて会長より会長挨拶をい
ただき、終わって県
北支部の吉岡統親
師を議長に選出し、

会員数百名、出席者五十一名、委任状提出者
四十四名により本総会が成立する旨が報告さ
れ、議事に入りました。

まず第一号議案「令和四年度事業報告並び
に決算報告・監査報告」について庶務と会計
より報告があり、補足としてSNS活動の報
告、絆の道慰霊行脚並びに東日本大震災十三
回忌法要の報告、曹福青創立六十周年記念頒
布物の報告がなされました。続いて会計監査
より帳簿、領収書等正確適正に記入運用され

ているとの監査報告
がなされ、承認され
ました。

続いて第二号議案

「令和五年度事業計
画案並びに予算案
報告」が事務局よ
り上程され、関連事
項として周年委員
長の楠恭信師より
令和五年度の六十
周年事業計画につい

て説明があり、続いて曹福青公式ロゴマーク
作成について副会長の内藤宏信師より説明が
なされ、可決承認されました。



議事終了後、十月

に行われる禅フェスに
ついての説明が周年委
員会よりなされ、続
いて執行部より縮小
版「禅の暦」、ホーム
ページ作成についての
報告がなされました。
続いて令和五年版カ

レンダー事務局長
の内藤宏信師より
挨拶があり、令和
六年版カレンダー
委員長に就任され
た相双支部矢内大
丘師より今年度カ
レンダー制作への
思いが会員に向け
て語られました。

最後に本年度総
会を以って退会さ

れます会員三名が紹介され、代表で会津支
部須藤智顕師よりお言葉を賜り、最後に副
会長の内藤宏信師より閉会の辞が述べられ
閉会となりました。

（事務局長 井上順平 記）



令和4年度 事業報告

| 日 時 | 事 業 名 | 参加人数 |
|--------|------------------------------------|------|
| 4月5日 | 会計監査：南東北総合卸センター | |
| 7日 | ボランティア活動：南相馬市 | 約20人 |
| 12日 | 執行部会：会津若松市恵倫寺 | 8人 |
| 18日 | 曹洞宗福島県青年会定時総会・第1回カレンダー委員会：パルセ飯坂 | 45人 |
| 5月9日 | 執行部会：南東北総合卸センター | 7人 |
| 10日 | 全国曹洞宗青年会定期評議会・中央研修会：曹洞宗檀信徒会館 | |
| 11日 | 全国曹洞宗青年会定期総会：曹洞宗檀信徒会館 | |
| 17日 | 60周年事業委員会・第1回役員会：ユラックス熱海 | 24人 |
| 6月1日 | 東北地協定例幹事会：青森県弘前市 | |
| 6月6日 | 第2回カレンダー委員会・第2回役員会：南東北総合卸センター | 26人 |
| 16日 | 60周年事業委員会：郡山市大慈寺 | 17人 |
| 29日 | 第3回カレンダー委員会・第3回役員会：南東北総合卸センター | 22人 |
| 7月19日 | 東日本大震災13回忌法要部会：いわき市医王寺 | 8人 |
| 20日 | 第4回カレンダー委員会・第4回役員会：南東北総合卸センター | 25人 |
| 27日 | 60周年記念頒布物部会：郡山市天性寺 | 8人 |
| 9月1日 | 第5回役員会：オンライン | 15人 |
| 13日 | 東北地協臨時常任幹事会：仙台市 | |
| 10月12日 | 60周年事業委員会：新舞子ハイツ | 20人 |
| 11月22日 | 全国曹洞宗青年会臨時評議員会・臨時総会・研修会：曹洞宗檀信徒会館 | |
| 25日 | 東北地協常任幹事会：石巻市マルホンまきあーとテラス | |
| 26日 | 第47回東北地方集会宮城大会「伝心」：石巻市マルホンまきあーとテラス | |
| 29日 | 60周年事業委員会・第6回役員会：南東北総合卸センター | 20人 |
| 12月16日 | 臨時カレンダー委員会：オンライン | 24人 |
| 20日 | 60周年記念頒布物部会：郡山市天性寺 | 8人 |

| 令和5年 | | |
|-------|--|-----|
| 1月25日 | 60周年事業委員会：郡山市西光寺 | 13人 |
| 2月17日 | 第7回役員会：オンライン | 12人 |
| 20日 | 60周年事業委員会：相馬市蒼龍寺 | 20人 |
| 3月11日 | 相双地区慰霊碑供養 | 30人 |
| // | 東日本大震災13回忌法要：相馬市 ほこだて仏光堂一休館相馬 | 36人 |
| 27日 | 第8回役員会・令和5年版カレンダー委員会・ 令和6年版第1回カレンダー委員会：石川町八幡屋 | 25人 |

○上記の他にオンライン執行部会、東北工業との契約打ち合わせ、縮小版カレンダー打ち合わせを適宜行いました。
○9月5日より3月10日まで13回にわたり東日本大震災慰霊行脚「絆の道」を実施しました。

曹福青 60 周年記念事業 ～インダス源流域緑化プロジェクト～

【事業目的】

地球温暖化による気候変動の影響が著しいインド北部のラダックへ植樹を行い、緑化を促すとともに環境問題に心を寄せる機会とする。また、チベット仏教の信仰が篤く、持続可能な社会の実現へ向けて積極的な活動をする現地との交流により、仏教信仰による社会形成や、SDGsの理解を深め、豊かさの本質を学ぶ契機とする。

【日 程】

令和5年5月30日(火)～6月6日(火)※植樹の最適時期により選定

5月31日 ゲストハウスにて高度順応

6月 1日 現地の学校にて持続可能な取り組みを見学 マトー寺院の僧侶たちと交流会実施

6月 2日 朝マトー寺院の僧侶たちと曹洞宗の坐禅を組む時間を設け、朝の祈りに参加する
早朝から夕方、穴の掘削と植樹 村の300世帯約1500人の住民から150人が参加

6月 3日 ツオモリリ湖を訪れる

6月 4日 活動中に感じたことや得た経験をシェアする共有会を行い、デリーへ移動

【研修内容】

- ① 稚樹を植樹(食用や建材として利用される樹木)
- ② 現地チベット仏教寺院との交流(寺院宿坊へ宿泊)
- ③ 気候変動の最前線を見学(氷河後退の様子など)
- ④ サステイナブルな暮らしを学ぶ

【植樹本数】

曹洞宗福島県青年会 800本(ヤナギの苗木600本・ワイルドローズの苗木200本)

※ウォールアートプロジェクトMy Treeプログラム 300本 マトー寺院 5000本 合計6100本

【協力者】

NPOウォールアートプロジェクト:おおくにあきこ氏 浜尾和徳氏

自治政府大臣(文化環境担当):チョスペル氏

マトーゴンパ僧長:ティンセル・チョサル老師

現地通訳:スカルマ・ギェルメット氏

【代表団(7名)】

| | | |
|-------|-------|-------|
| 団 長 | 佐藤 泰典 | (会 津) |
| 副団長 | 村上 徹信 | (いわき) |
| 企画責任者 | 楠 恭信 | (会 津) |
| 庶 務 | 宍戸 正俊 | (いわき) |
| 会 計 | 山田 康裕 | (会 津) |
| 記 録 | 柳澤 惇哉 | (県 北) |
| 記 録 | 星見 元耀 | (相 双) |





① 植樹前の苗



② 穴を掘削する



③ マトー村の方々



④ 灌水する



⑤ 祈りを込める



⑥ 植樹完了



⑦ 通水式



⑧ 点滴灌漑

団員レポート①

ラダックの自然環境と環境変化

ラダックは、インドの北部に位置する地域であり、美しい風景でインド国内の人々も観光をするほど魅力的な場所です。日本で言えば沖縄のようなものでしょうか。しかし、近年、環境変化の影響を受けていることが懸念されています。ラダックの自然環境と環境変化について詳しく探っていきます。

インダス川の流域で標高が四千メートルと高く、雨がほとんど降らない乾燥した高地砂漠の風景、氷河、高山の草原など多様な地形と生態系が広がっています。私たちは標高四千五百メートルにある天空の湖、ツォモリリ湖に行きました。インダス川源流に沿って南下するとヒマラヤの雄大な山々が様々な表情を見せて、遊牧民も多く、パシユミナ山羊、ヤク、牛、羊、馬があちこちで放牧されていました。

しかし、放牧地にいる動物の数に対して草原の量が明らかに少ないように感じました。出発して五時間でツォモリリ湖に到着。太陽の光によって湖の表情は常に変化をし、神秘的な姿で私たちを迎えてくれました。標高が高いために息が上がりませんが、湖に向かって静かに座り、息を調えると酸素が全身に染み渡っていました。帰りは標高五千八百メートルの峠を

越え、全員が高山病の症状に苦しめられました。ヒマラヤ山脈、インダス川、天空の湖、氷河、遊牧民、動物……。ラダックの大自然とそこで暮らす人々から、多くの感動と気づきをいただきました。

農業や畜産業は、氷河が解けた水を利用しているが気候変動により、降水量や温度が変動し、氷河が後退しています。この結果、水資源の減少や土壌浸食の増加などの問題が発生しています。水不足や気温変動によって、放牧民や日常生活に影響を及ぼしています。ラダックの美しい風景と独特な文化は、多くの観光客を魅了しています。

しかし、観光の増加に伴い環境への負荷が増大しています。廃棄物の増加、大気汚染、土地開発などが主な懸念事項となっています。ラダックでは、環境保護と持続可能な開発に向けた取り組みが行われています。地域の住民、政府機関などが協力し、再生可能エネルギーの利用や環境教育の普及、環境保護区の設立などが進められています。しかし、まだ課題が残っています。気候変動への適応策や持続可能な農業、観光開発の管理など、継続的な取り組みが必要です。私たち一人一人が、環境へ意識を向けることでラダックだけでなく世界の環境がより良いものとなっていくことを目指しましょう。

(相双支部 星見元耀 記)



現地の方々に御礼のご挨拶を致しました

荒野に木を植える

今回の旅のメインとなる植樹。場所はラダックの首都レーの町から二十五キロメートルほどのところにあるマトー村。マトー村は標高約四千メートルであり、冬にはマイナス二十度以下の極寒の世界となる。生活に利用する水は雪や氷河が融解した水に依存しているため、気候変動の影響を大きく受ける。そのため、土壌の保水力を上げるなどの土壌保全や生物多様性の保護など様々な意義がある植樹を行う。

植樹する苗木は、木を育てることを生業としてきたマトー村の人たちと相談した結果、柳やワイルドローズを中心とすることが決まった。柳はラダックの伝統的な家を建てるときの建材として現在も需要のある木で、ラダックの気候に合致している。またワイルドローズは在来種で、その果実は食用、花弁はローズウォーターに、ローズヒップはお茶や石鹸の材料にと様々に利用可能とのことである。そして、それら約五千本の苗木を、マトー村のチベット仏教寺院であるマトーゴンパに提供していただいたそうだ。

さらにラダック自治評議会からの協力も得て、植樹地の周りには動物に食べられないための柵が設置されていた。当日、私たちが現地に着してまず目にしたのは、植樹を行っている百五十人ほどのマトー村の方々だった。彼らが

真剣に植樹を行っているのを目の当たりにし、我ながら土気が上がるのを感じた。

植樹にはまず約三十センチメートルの穴を掘る必要があった。しかし、植樹地の地面は固く、石なども大量に埋まっているため、スコップではなく鉄の棒を使って崩し、土をカップや手で掘り出していく。その後は苗木を挿し、土を戻し、叩いて固める。水をあげたらカタックという白い布を折りを込めて結びつけたら完了だ。

一箇所の植樹だけでもかなりの労力が必要であった。私たちより先に始め、さらに私たちの植樹の手伝いもして下さったマトー村の方々に感謝の気持ちでいっぱいになった。植樹した苗木の水やりは、点滴灌漑という方法を採用した。地下約三百メートルからソーラー発電のポンプで地下水を汲み上げ、水が流れるホースを全ての苗木に設置し、そこから点滴のように少しずつ水やりをする。植樹の後にはティーセレモニーが行われた。ラダックの農業・文化大臣のチョスベルさんやマトーゴンパの僧長などの挨拶の後、点滴灌漑の通水式が行われた。私は無事に水が流れていくのを眺めながら、これから苗木が大地に根を張り、元気に力強く成長してくれることを祈った。苗木の成長の様子は現地から送られてくる写真で見ることが可能であるとのこと。遠い日本からこれからも見守っていきたいと思っている。

(県北支部 柳澤惇哉 記)



植樹にご協力下さった方々と共に

支部だより

県北

六月六日に県北青年会（県北支部）総会を福島市東安寺様にて行いました。ほぼコロナ禍以前の形での年間予定で承認されました。総会終了後、会場を福島市珍満寶館に移し四年ぶりとなる懇親会を開催しました。会員皆久しぶりの懇親の席で思い思いを語り合い有意義なひと時となりました。



・華燭の典

コロナ禍が落ち着いてきたことにより、めでたく結婚式が続きました。

令和四年九月二十五日

荒井浩之師 新婦真代さんと

令和四年十月十六日

玉木克宗師 新婦悠子さんと

令和五年四月十五日

飯東俊幸師 新婦祥子さんと

末永い幸せと、今後益々のご活躍をご祈念いたします。



（県北支部 清水清孝 記）

県中

県中青年会では、六月二十日に定例総会を行いました。今年度の事業計画などについて話し合いました。



また、七月二十五日に大槻の長泉寺、八月二十日に田母神の天性寺にて、それぞれ禅のつどいを開催しました。新型コロナウイルスの影響でここ数年は中止となっていたため、四年ぶりの開催となりました。筆者も初参加となります。参加人数は長泉寺が二十二名、天性寺が八名です。

当日はオリエンテーション、聖歌練習、開講式、記念撮影、写仏、座禅指導・座禅・薬石などを行いました。それらが終了した後、長泉寺では交歓会としてビンゴゲームやプレゼント交換、花火があり、天性寺では参加者たちにかき氷が振る舞われました。開講式で参加者の皆様にも聖歌や般若心経を一緒に唱えてもらったり、薬石における五観の偈や長く座禅をするなど、日常ではあまり触れられない貴重な機会になれたかと思っております。今後もできる限り継続して行っていきたいです。



（県中支部 木町元風 記）

県南

去る七月三十二日、矢吹町長徳寺様を会場に第五十六回緑陰禅の集いを開催いたしました。

コロナ禍における中止を経て四年ぶりの開催となりました。



今回は感染症の再拡大に留意して、以前のような二泊二日の宿泊を伴う日程ではなく、日帰りでの開催とさせていただきました。町内の小学生ら二十名が、坐禅を中心としたお寺の生活に挑戦しました。参加した子供たちは皆、お寺で過ごす体験は初めてであり、慣れないことも多々ありましたが、皆で一日の生活を共にすることで、坐禅会が終わる頃には姿勢を正して二十分近くの坐禅にも集中して取り組むことが出来るようになっていきました。参加した子供たちにとっては、この体験を通して、今を見つめ直すという良いきっかけにもなったように感じます。

また、子供たちの交流を目的として、切り絵工作や数珠作り、お楽しみ会も実施し、新たな横のつながりが生まれる時間ともなり、一夏の思い出作りにもなったことでしょうか。

今回は感染症がきっかけで日帰りという短い時間での開催とはなりましたが、本会員の減少による運営の人手不足が課題となる昨今、歴史ある禅の集いを今後も継続して開催出来るよう工夫し考え、良いきっかけともなりました。



（県南支部 長谷川俊隆 記）

相 双

七月二十五日、南相馬市岩屋寺様主催の禅の集いが開催され随喜しました。初めに皆で読経、そして坐禅指導の後二十分ほど坐禅。最初のうちは暑さや緊張で慣れない様子も見られましたが、外での流しそうめんやスイカ割りでは、楽しんで過ごせたようでした。地元の方で大人から未就学児のお子さんまで十人程が集まり、夏休みの良い思い出として、お寺を身近に感じて頂けたことと思います。

七月二十六日、相馬市蒼龍寺様を会場にふくしま禅フェス楽しい寺子屋の相双支部会議並びに、その準備を行いました。相双ブースとしては廃蠟燭を用いたキャンドル教室を考えており、事前に各所よりご協力頂いた使用済み蠟燭の仕分け、溶かし、不純物を取り除きこす作業など各自担当しました。蒼龍寺様では、不定期でキャンドル教室を開催していることもあり、レクチャー頂きながら、効率よく作業が出来ました。ありがとうございました。



相馬市、南相馬市にある地元の葬儀社JAやすらぎ会館より、個別に依頼があり、会員の島村哲哉師、田中俊幸師が講師として終活セミナーが開催されました。相馬市の会館では田中師。南相馬市の会館では島村師が講師となり、それぞれの視点から、葬儀の意義やエンディングノートについて、実際の手続きの流れや遺言について等話をし、参加者の不安や悩みに寄り添いました。

(相双支部 斎藤紹俊 記)

い わ き

当支部はいわき市を範囲とし、第十五教区及び第二十二教区の会員で構成されています。

四月二十四日には円福寺にて支部の定例総会を開催、前年度決算、新年度予算や行事予定が承認され、新年度を開始しました。

七月二十八日、同三十一日、八月一日には前年に続いて緑蔭禅のつどいを医王寺、龍雲寺にて開催、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザその他感染症の拡大を防ぎながら、参加した子どもたちは坐禅やヨガなど普段の生活ではなかなかできない体験を思い思いに味わいました。



支部としては、来年度のカレンダー委員会担当に向け、会合を重ねるなど、現在、令和七年用を鋭意準備中です。

また、支部内では、感染対策に留意しながら、約三年ぶりとなる教区、組寺の御随喜を頂き、盛大に盂蘭盆会の恒規法要が厳修され、如法に修行されました。

(いわき支部 福羽敦正 記)

会 津



会津支部では五月十五日に会津若松市秀安寺様にて総会を開き、前年度決算と新年度予算、事業計画等について審議し承認されました。またこの総会をもって、永らく曹洞宗福島県青年会に御尽力頂き、支部長も務められた須藤智頭師が退会されました。

六月二十日の定例会に於いて、曹福青六十周年事業の一環である、インドのラダックにて行った植樹活動の報告も行いました。会津支部からは三名がチベット寺院に参拝し、植樹活動や現地での生活様式を通してSDGsの精神を学び、チベット仏教と曹洞宗の心の交流を行ったという報告をいただきました。



会津支部では、十月十五日の曹福青六十周年事業「禅フェス」に向けて、消しゴムはんこで作るトートバッグのワークショップを子供向けに準備しています。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご来場下さい。

(会津支部 新保宗嗣 記)

禪フェス告知

曹福青六十周年事業として、十月十五日に會津藩校日新館を会場に「ふくしま禪フェス 楽しい寺子屋」を行います。情報にあふれ、時代が目まぐるしく加速し、閉塞感も漂う現代社会に生きる全ての人のために、仏教・僧侶を身近に感じ、仏教の教えを持ち帰って生活に取り入れてもらい、少しでも安心を得てもらうことを目的としています。

会場では、坐禅や法話などの仏教に触れ、学び感じてもらおうブースから、お坊さんと遊んだり、数珠ブレスレット作りやキャンドルアート、トートバック作りなどのワークショップで楽しむブース、さらに仏教に関連する一般ブースなど、子どもから子育て世代、さらにはお年寄りまでの誰もが参加できるブースを展開します。また、会員にとっても自覚を新たに、地域におけるお寺の在り方、社会における僧侶の役割を自らに問い、今後の寺院運営や仏道の布教に繋がられる機会にしたいと思えます。会員一丸となって禪フェスを成功させましょう。

(事務局長 井上順平 記)



ホームページ・ロゴマークについて



<https://soufukusei.jp>



前年度より制作を進めていた曹福青のホームページが四月に開設いたしました。現在は当会の活動報告に加え、精進のアーカイブ閲覧、禅の暦の申し込みも可能になっており、会員専用ページにて総会資料などの情報共有も出来るようになっていきます。これからは、さらにコンテンツを増やしていき、多くの方に当会の事をより知っていただき、我々と一般の方々を繋ぐホームページにしていきたいと思います。

また、曹福青創立六十周年記念事業の一環として公式ロゴマークを作成いたしました。このロゴマークは、坐禅の姿、法界定印をベースにしながら、数字の6とアルファベットのFが表現されています。福島県の豊かな自然のもと、六支部の和合、親睦を図りながら、山に登っていくが如く未来に向かって挑戦していく青年僧の会でありたいとの願いが込められています。このマークと共に、創立六十周年の歴史をふまえながら、これからの曹福青の新しい歴史を会員一丸となって作り上げていきます。

(事務局長 井上順平 記)

令和六年版「禪の暦」紹介

令和六年版禪の暦は『六観音―ほとけと出会う―』と題し、福島県内曹洞宗御寺院のご協力のもと、貴重な観音さまを撮影させていただき制作いたしました。中には普段ご開帳されていない秘仏も含まれております。観音さまに向かつて心静かに手を合わせていただければ幸いに存じます。

観音さまは「観世音菩薩」と称し、「世音」すなわち「人々のあらゆる声」を聞き届け、人々が望む姿に応じてそのお姿を変え、慈しみの眼差しをもって苦しみからお救いくださる最も身近な仏さまであるとともに、私たちが目指すべき理想の姿である「菩薩」を象徴する仏さまでもあります。



以前にも増して社会はより混迷を深めています。私たち青年僧侶は、多くの苦しみや悩みを抱えている方々に、心の支えや安らぎとなるカレンダーを届けたいとの強い想いを持っていきます。このカレンダーを通して「ほとけ」という存在は遙か遠いところであり、手が届かないものではなく、最も身近な自分の心の中にある。このことに気づくことこそが、今を生きる皆さまの幸せにつながるものと信じています。

今回のカレンダーをひとつのきっかけとして、これまで以上に観音さまやお寺、仏教を近くに感じていただき、全ての生きとし生けるものが幸せとなるような、「ほとけの心に基づく社会」につながることを願っております。

合掌

曹洞宗福島県青年会会長

佐藤 泰典 九拜

同カレンダー委員会委員長

矢内 大丘 九拜

【令和6年版 禪の暦 お申し込み要項】

- カレンダーは従来版・A4版共1部250円です。
- カレンダーのご注文は、10部単位でお申し込みください。
- 送料は一律1,000円です。
- 名入れ注文は50部以上一律一種10,000円の別料金にて受け賜ります。名入れは下記の活字体で山号・寺号・住所・電話番号等をお入れいたします。また、指定原稿(自筆・その他)の場合は原稿作成の上、お申し込みハガキと共に封書で(株)青葉堂印刷内カレンダー事務局宛にお申し込みください。
- 書体のみ指定(例:ゴシック体)がありましたら通信欄に記入願います。
- お申し込みはFAXまたは、同封のハガキにてお願いいたします。
- 10月14日(土)までお申し込みください。

お問合せ先

株式会社青葉堂印刷内カレンダー事務局 (担当:大竹・飯澤)
〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1-808-22
TEL.050 (3386) 3610 FAX.0238 (29) 1238

僧見聞録

『古仏にならう』

いわき支部

長谷寺副住職

白石 龍一



私の師寮寺である長谷寺は大同二年(八〇七)に法相宗の学僧である徳一大師によって開かれました。今回はその御開山さまについてご紹介したいと思います。

御存知の通り、徳一大師(以降、徳一)は会津地方、とりわけ磐梯町を中心に菩薩あるいは大師として信仰されております。福島・山形を中心に徳一開山の寺院とゆかりのある寺院を含めると九十を超えます。そのため過去には徳一に関する研究が活発に行われました。近年では花園大学の師茂樹氏や駒澤大学の吉村誠氏によつて再度徳一に光を当てようという機運が高まっております、これからの展開に期待が集まる場所です。研究の余地について言及しますと、これまで史学的な研究は充実しておりますが、未だ徳一の思想に関しては十分に議論されておりません。その最たる原因は徳一の著述の殆どが散逸している事にあります。ゆえに一次資料として彼の書を求めた場合、主たる論敵であった最澄の膨大な撰述群の中から徳一のテキストに由来する引用箇所を抽出するという、極めて煩瑣な手段が必要となるのです。最澄による徳一著述の引用箇所に触れると、徳一は法相教

学を究め唯識思想を深く理解していたことが解ります。加えて『撰大乘論』のような梵語を想定して解釈せざるをえない難解な論書を多用していることから、玄奘がインドから持ち帰った唯識の知識のみならず梵語にも精通していたのではないかと推測できます。

唯識というのは「唯だ識のみ」と称するように「識」が深層心理を超えた奥深いところで転変し、我々のこのころとからだを構築し、我々が認識しているであろう「世界」をも構築していると仮定する、仏教の中でも極めて哲学的で学問的な思想です。学究の徒であった徳一が東国へと仏教敷衍の旅へ赴いたものには、勅命という理由の他に彼が単なる学者ではなく実学の人だったことが伺えます。最澄はその著作の中で徳一度々「餽食者」と蔑称で指します。徳一の粗食による痩せ細った身体に加え粗末な衣を纏う外見的特徴と、天台二乗思想を批判する態度を表した言葉が「餽食者」です。徳一はむしろこの蔑称を是として受け入れた気がしてなりません。都を離れ清貧を尊び、自然智を求め山で瑜伽行を修め、そして多数の寺院を開創し衆生教化に勤める姿を想像いたしますと、民衆から徳一菩薩・徳一大師として尊敬の念を集めるのは決して不思議なことではありません。「行学一如を千二百年前に実践していた古仏の姿に思いを馳せますと、現代社会の中で僧侶として生きる私自身、身が引き締まる思いであります。種子が転変し刹那滅するが如く目まぐるしく変化する現代社会ではあります。が、徳一に倣い只管に仏道を行じ衆生教化に勤めていきたいと思うばかりです。

合掌



編集後記

第一一四号も無事に発行することができました。執行部事務局の皆様、各支部長の皆様、各支部精進委員の皆様、快く原稿執筆して頂きました皆様、坂本印刷所の皆様の御協力のおかげです。本当にありがとうございました。

委員長 安倍 元宏 九拜

今号も恙無く発行することができました。ひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。さて県中支部担当の精進も次号で最後となります。禅フェスや周年事業等、青年会の活動を余す所なく伝えていきたいです。

事務局長 秋山 真宏 九拜

県中では四年ぶりとなる子供坐禅会を行い、各地の夏祭りなどが何年ぶりに開催されたニュースを見ると、だいぶコロナも世の潮目が変わってきたと思う今日この頃です。今秋に開催の禅フェスも盛り上げがば嬉しく思います。

庶務 西川 秀哉 九拜

無事に精進第一一四号を発行する事ができて安堵しております。次号で県中支部が担当する精進は最後となりますが、引き続き曹洞宗福島県青年会六十周年記念事業等、私達の活動を余すことなく伝えていければと思います。

会計 高菜 清二 九拜



精進

第114号

令和5年9月30日

[発行所]

〒965-0822

福島県会津若松市花見ヶ丘3丁目3-8 恵倫寺内

曹洞宗福島県青年会

TEL.0242-26-2882

[発行責任者]佐藤 泰典

[編集責任者]安倍 元宏



曹福青公式 facebook はじめました いいね! をお願いします

